

青森県花のくにづくり推進協議会 (青森県)

協議会構成団体: J A全農あおもり、(株)青森花卉等県内5花き市場、花キューピット青森県支部、フジテレビフラワーネット加盟店会青森県支部、(株)中村生花店、日本フラワーデザイナー協会青森県支部等花装飾3団体、(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所、青森市農業振興センター、八戸市農業経営振興センター、青森県農林水産部

戦略品目

切り花: トルコギキョウ



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 生産供給体制の強化

高温・長日条件で早期開花と切り花品質の低下が発生しやすいトルコギキョウの秋出し栽培において、定植後から発らい期までの夜間LED電照による切り花品質向上効果及び開花抑制による早期開花防止効果を検証し、得られた成果を実証結果として資料化する。

- 定植後から発らい期まで、6時間の赤色LED電照処理によって、切り花品質向上効果が確認された。
- 中晩生品種「ベールブルー」及び「ハピネスホワイト」では、10~13日ほど開花抑制による早期開花の防止効果が確認された。



夜間に点灯する赤色LED電球

3 需要の拡大

戦略品目の需要拡大を図るため、幼稚園や小・中学校や老人福祉施設等において、花壇づくりや寄せ植え、フラワーアレンジメント体験教室を開催する。

- 花壇づくりや寄せ植え体験に249名、フラワーアレンジメント体験に572名の合計821名が参加した。
- 参加者へのアンケート結果から、「家庭でも花を飾りたい」という回答が57%、「購入する機会を増やしたい」が57%、「花を贈りたい」が50%、「フラワーアレンジメントを習いたい」が22%となるなど、体験をきっかけにして、花への興味や関心が高まった。



アレンジメント教室

< 今後の取組予定 >

- 令和3年度実証農家からはLED電球の導入コストが高いという声があったことから、令和4年度は、トルコギキョウ栽培における赤色LED電照処理の費用対効果を明確にし、得られた成果をマニュアル化する。
- コロナ禍で花育活動の実施が制限されていることを受け、花育活動に活用するための動画を作成する。

いわて花と緑の普及協議会 (岩手県)

協議会構成団体：全国農業協同組合連合会岩手県本部、株式会社盛岡生花
地方卸売市場、岩手県花卉商組合、JFTD岩手支部、フラワーネット
岩手県支部、NPO法人GreenFields、新岩手農業協同組合八幡平花卉
生産部会、花巻農業協同組合、岩手県

戦略品目

切り花：りんどう、きく

鉢もの：りんどう、セネシオ



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 生産供給体制の強化

- ・切り花りんどうの収量増加技術の実証

県オリジナルりんどう品種「いわて夏のあい」について、通常よりも立茎数を増加させることにより、作業労力の軽減と収量等を調査した。

(1株当たり仕立て本数：8本、12本、16本)

- ・小ぎくの摘心技術実証

県内の小ぎく主力品種について、摘心方法の違いが分枝数、切花品質に及ぼす影響や、摘心の作業時間を調査した。

- ・切り花りんどうの収量増加技術の実証

通常(8本)よりも立茎数を多く(16本)することで収益性が1.7倍程度に向上することが明らかになった。

また、立茎数を増加させても病害虫の発生程度に影響は見られなかった。

なお、立茎数を増加させたことによる今後の株の生育への影響については、継続して調査が必要である。

- ・小ぎくの摘心技術実証

箱ピンチ、ソフトピンチ、ハードピンチの3種類の摘心方法を比較したが、作業能率の面から、ハードピンチが有望な摘心方法であると考えられた。



りんどう立茎数ごとの生育差



摘心方法による生育差
(左：ハードピンチ、右：ソフトピンチ)

3 需要の拡大

- ・高校生を対象とした花育体験の実施

県内高等学校の生徒130名を対象に、戦略品目であるりんどう、セネシオを中心とする県産花きを用いた寄せ植え体験を実施した。

- ・高校生を対象とした花育体験の実施

参加者にアンケートを実施したところ「今後、自分で花を飾ってみたい」と全体の60%で回答があった。

また、「花があると雰囲気が変わるので部屋に飾りたい」、「花本来の素晴らしさを知ることができた」等の意見も寄せられるなど、県産花きの知名度向上と需要拡大に繋がる効果が得られた。



花育体験の様子

< 今後の取組予定 >

- ・切り花りんどうの増収技術について、収穫物の評価や出荷形態の検討を継続していく。
- ・県産花きの知名度向上と需要拡大のために、引き続き花育体験活動等を実施する。

宮城県花と緑普及促進協議会 (宮城県)

協議会構成団体：宮城県（農政部園芸推進課，農業振興課，宮城県農業・園芸総合研究所），仙台市（経済局農林部，建設局百年の杜推進部），全国農業協同組合連合会宮城県本部，宮城県園芸協会，仙台生花株式会社，株式会社仙花，株式会社石巻花卉園芸，仙台中央卸売市場花卉仲卸協同組合，宮城県花卉商業協同組合

戦略品目

切り花：きく，ひまわり，カーネーション

＜取組内容＞

1 生産供給体制の強化

- きく類冬季経過作型において多段階EOD-heatingを実証し，燃油消費量の削減と現地への普及を図る。
- 播種時期や栽培方法（地植え密植，根域制限等）等を実証し，小型化ひまわりの計画生産を図る。

- きくの冬季作型において多段階EOD-heating管理を行うことで燃油消費量を約17%削減できた。ただし，到花日数が7日程度遅れるため，出荷時期を考慮した生産計画が必要であることが明らかとなった。
- 需要期（6～9月）に小型化ひまわりを出荷するための播種時期（4～7月）や栽培方法（バット栽培，防根透水栽培，密植栽培）等が明らかとなった。



小型化ひまわり栽培実証

3 需要の拡大

- 高校生花いけバトル東北大会，オンラインフラワー講座の開催による県産花き消費拡大を目指す。
- カーネーションの産地表示販売を行い，県産花きの地産地消に対する需要拡大を目指す。
- 県内小学校及び児童厚生施設を対象としたフラワーアレンジメント・寄せ植え体験教室及び高校生を対象とした生け花体験教室を開催し，若年層の需要拡大を目指す。

- 高校生花いけバトル東北大会の開催により，若い世代が花きに親しむ機会の創出と県産花き消費拡大が図られた。また，オンラインフラワー講座では，243名に対し講座用動画と花材を提供し，コロナ禍における県産花きの消費拡大につながった。
- 販売用スリーブ・ステッカー等により産地表示販売を行うことで，県内産地を初めて知ったなど消費者に産地が認識された。また，生花店における産地表示販売に関心が高いことが明らかとなった。
- 県内6カ所の小学校・児童厚生施設へアレンジメント等体験キット（花き産地紹介動画，アレンジメント手順書，花材等）を提供し，花に親しむ習慣の定着が図られた。
- 県内7校の高校生に対して，「花いけ練習会」を実施することで，若い世代が花き文化に触れ，県産花きへの理解向上が図られた。



小学生を対象とした花育教室

＜今後の取組予定＞

- きく類冬季経過作型への多段階EOD-heatingの導入実証では産地への普及を図るため，燃油削減効果の年次変動を検証する。
- ひまわり小型化栽培では，引き続き小型化栽培技術の確立に向けた実証を行うとともに，現地への普及に向けた検討を行う。
- 消費者等に対する普及啓発活動のため，引き続き高校生花いけバトル東北大会及びオンラインフラワー講座を実施する。
- カーネーションの産地表示販売は，産地主体の取り組みとして継続してPRを行っていく。
- 若年層への県内花きの認知度を向上及び県産花き利用促進のため，引き続き花育教室等のフラワーイベントの開催を行う。

秋田県花きイノベーション推進協議会 (秋田県)

協議会構成団体: 秋田県花き生産者連絡協議会、秋田県花卉小売商業協同組合、秋田生花株式会社、秋田県花いっぱい運動の会、秋田県花き仲卸組合、全農秋田県本部園芸畜産部、一般社団法人秋田県農業会議、秋田県農業試験場農試験場野菜花き部、秋田県花き種苗センター、秋田県農林水産部園芸振興課

戦略品目

切り花:
ダリア、小ギク、
シンテッポウユリ



< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- 品質向上、生産性向上を図るため、各地域7箇所に課題解決に向けた実証ほを設置した。
- ・ダリアにおいて、需要期での出荷量増加を目指し、刈込仕立て技術の実証をする。
- ・シンテッポウユリにおいて、葉先枯れ症状を低減させるため、追肥試験を実施する。

- ・ダリアでは、地域や品種で差が大きかったが、露心花の発生率が抑えられた他、需要期での出荷割合が増加した。
- ・シンテッポウユリでは、花芽分化時期のカリウム資材施肥区で切花長、切花重は増加したが、葉先枯れ症状の軽減は効果の差が見られなかった。



ダリア: 刈込仕立てを実施したほ場



シンテッポウユリ:
カリウム資材施肥ほ場

2 流通の効率化・高度化

- ・湿度保持資材で梱包した小ギク、シンテッポウユリ、リンドウを1週間低温保管した後、関西・北陸市場へ2日間掛けて輸送し、品質を調査する。

- ・資材の梱包方法を花のみ包む「内梱包」、出荷箱ごと包む「外梱包」、無処理の「対照区」の3区で実施した。
- ・葉の萎れは内梱包>外梱包>無処理の順で少なかったが、もともと湿度の高いリンドウでは高湿度により品質の低下が見られた。外梱包は輸送時の作業のやりにくさが報告された。



シンテッポウユリ内梱包の様子



対照区は花首に萎れがみられる
外梱包は萎れがみられない

3 需要の拡大

- ・仏花としてのイメージが強い小ギクを活用しフラワーモニュメントを観光施設「秋田ふるさと村」に設置し、来場者へ県産花きの品質の高さと県内若手生花店の技術の高さをPRした。

- ・地元新聞での掲載により、モニュメントを見学に来る者が多く見られ関心の高さがうかがえた。
- ・アンケート調査では、キクに対して仏花のイメージがあるという意見が多かったが、モニュメントを見て「キクのイメージが変わった」「アレンジメントに入っても抵抗がない」という意見をいただき、PRの効果が見られた。



ふるさと村公式キャラクター「ノブ」をウォールフラワーモニュメントで表現製作の様子 (左)、多くの来場者が見学 (右)



< 今後の取組予定 >

- ・県産花きの生産性向上を図るため、生理障害が発生しにくい品種の選定など、地域毎での課題について検証を行う。
- ・更なる需要拡大を図るため、異業種との交流を図り、新たな需要を模索していく。
- ・消費者に対し、花育や、イベントを通じて世代や業種を超えた連携を深め、身近に花のある暮らしを提唱する。

山形県花き振興協議会 (山形県)

協議会構成団体：山形県JA園芸振興協議会花き部会、
庄内花き生産組織連絡協議会、山形県鉢物協議会、山形県花木生産者協
議会、山形県りんどう生産研究会、山形県トルコぎきょう研究会、山形生花地方
卸売市場、山形生花商組合連合会、山形県

戦略品目

切り花：ストック、トルコぎきょう、りんどう
ダリア、紅花、アルストロメリア

切り枝：啓翁桜



< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- トルコぎきょうの土壌病害について、土壌物理性の改善や適切な土壌消毒の実施、土壌分析による施肥管理、定植後の適切な栽培管理等を行うことにより、発病が抑制できることを実証し、品質の向上及び生産量の増加を図る。

- 土壌物理性改善や土壌消毒、施肥管理、適切な栽培管理等の実証結果をもとにして、土壌病害の防除方法、防除実例をまとめた山形県版「トルコぎきょう立枯病対策マニュアル」を400部作成した。県内の生産者に配布し、圃場条件にあった対応策を推進し、品質向上と生産量の増加につながっている。



立枯病対策マニュアル

2 流通の効率化・高度化

- ダリアについて、採花後から最終消費地までの品質を確保するために適した切り前の検証を行い、日持ち性の向上、市場評価の向上を図る。

- 切り前を通常と通常より咲いていない固切りの2種類とし、5品種で検証を行った。結果は、品種により差があり、固切りの方が日持ちが良い品種と、どちらも変わらない品種があることがわかった。品種別の切り前対応について整理することができた。



異なる切り前での比較

3 需要の拡大

- トルコぎきょう、りんどう、啓翁桜等、戦略品目の消費拡大に向けて展示会・フラワーコンテストを開催し、PRを行う。
- 県内の小学校及び特別支援校で県産花きの展示を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。

- やまがたフラワーフェスティバルには1,000名以上が来場した。品評会入賞作品の展示、生産者のPR動画の放映などにより、高品質な花き生産を行っている産地のPRを行うことができた。
- 県内250校で県産花きの展示を行った。担当した生花店へのアンケート結果より、展示後に27%の店舗で来店者が増加した。



フラワーフェスティバルの様子

< 今後の取組予定 >

- フラワーコンテストを開催し、生産者の技術向上に向けた品評会や、消費者への需要喚起・産地PRのための展示を行う。
- りんどうの県内民間育成有望系統について、種苗供給体制の強化のため、培養による苗生産効率を検証する。
- 小学生を対象とした花育教室を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。

福島県花き振興協議会（福島県）

協議会構成団体：株式会社福島花き、株式会社あいづ園芸、
福島花卉商業協同組合、全国農業協同組合連合会福島県本部園芸部、
福島県鉢花生産者協議会、福島県農林水産部園芸課

戦略品目

切り花：きく、りんどう、
トルコギキョウ、
宿根かすみそう
鉢物類：シクラメン、
クレマチス



< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- トルコギキョウの高温期定植作型において発生する短莖開花を防止するため、育苗後に20℃3週間の作型適応処理を行い、切花長への影響を調査した。
- キク白さび病の育苗期間の防除のため、秋に定植する作型において苗の45℃1分間の温湯浸漬処理による防除効果を調査した。

- 作型適応処理を行ったトルコギキョウは、慣行栽培と比較して、切花長が約6.3cm増加した。また、作型適応処理を行うことで、開花期が約1か月前進した。
- 温湯浸漬処理3週間後の、キク白さび病の発病株率は38%で、無処理区の64%を下回り、秋定植作型における発病抑制効果が確認された。



作型適応処理を行ったトルコギキョウ（左）

< 取組の成果 >

2 流通の効率化・高度化

- 鉢花の輸送経費削減のため、県内に物流拠点を設けて、出荷物を集積することが可能か、卸売業者、流通業者を交えて協議を行った。

- 集積場所を設定している他県の事例では、出荷物がまとまらない時期があることから、運営が厳しい状態もあることが分かった。
- 広い視点で様々な物流方法を模索していくこととなった。

3 需要の拡大

- 小学生を対象に、戦略品目の県産花きを用い、生け花やアレンジメントによる花育を行い、若年層の新規需要の創出を図った。
- ホワイトデーにお菓子と併せた花きのプレゼントについて提案を行うとともに、花きの消費に関するアンケートを実施した。

- 約3,000名の児童が花育体験を行い、参加した児童及び保護者へのアンケート結果、花育体験後の花を飾りたいと回答した家庭が92%を占めた。
- 約150名を対象にアンケートを行った結果、50歳以降花を購入する人の数が増加することが分かった。また、花を購入する際の課題として、値段が高いだけでなく、値段設定がわかりにくいという意見が挙げられた。



花育教室の実施風景

< 今後の取組予定 >

- 生産供給体制の強化のためトルコギキョウの作型適応処理について、種苗業者において処理が可能か検討するとともに、県内各地での地域間差の有無を調査する。
- 需要の拡大については、花育活動を継続するとともに、品評会の開催や異業種と連携したPR活動を展開していく。